

概要

令和3年6月30日(月)の放課後(16:15~17:00)、本校視聴室にてオーストラリアの外務省第一次官補 Lynette Wood 氏によるオンライン講演会が開催され、1年生8名、2年生9名、3年生4名の計21名が参加しました。石巻で外国語指導助手を経験された後、外交官になる決意をした経緯や外交官の仕事内容などをお話いただいた後、10人ほど一高から質問をし、回答していただきました。



講演内容 (一部)

大学では外国語(独語, 仏語, 日本語)を専攻し、卒業後1年間石巻で外国語指導助手として英語を教えました。その後、帰国して再び大学に入り、国際関係論を学んだ後、外務省に入省しました。ドイツやカナダのオーストラリア大使館で働いた後、キャンベラの本省に長く勤務し、中東などを担当しました。そして、ドイツのベルリンでオーストラリア大使として4年間勤務し、昨年12月にオーストラリアの本省に戻ったところです。

大使の主な仕事は5つ: ①自国からの公式訪問者の滞在中の予定調整, 企業支援, ②駐在国の各地で行う自国の紹介, ③駐在国での自国文化の広報活動, ④大使館の統括管理, ⑤駐在国の公式行事への出席。特に②はオーストラリアとドイツの間に「橋を架ける」ことであり、楽しんで仕事ことができました。

質疑応答 (一部)

質問「COVID-19により、帰国できず困っているオーストラリア人がドイツにたくさんいると思いますが、その問題をどのように解決されたのでしょうか。」

回答「昨年COVIDが流行し始めた時、世界中の多くの国々にオーストラリア人がいました。COVIDは急速に広がったので、航空会社は飛行機の便を欠航し、人々は足どめされ、どうやって帰国したらいいのか途方に暮れる状況でした。そこで、私たちは航空会社に働きかけ、オーストラリア人が帰国できるようオーストラリアへ飛ぶ便を増やしてもらいました。また、オーストラリア政府も国民が帰国できるよう飛行機を手配しました。」

質問「Lynetteさんはオーストラリアとドイツの架け橋になったとおっしゃっていました。自分は教師になりたいと思っています。誰かに何かを伝えるという点で同じではないかと思うのですが、誰かに情報を伝える時に大事なことは何ですか。」

回答「先生になることも、橋を架けるようなものだというあなたの考えは正しいと思います。あなたが知っていることと、生徒に学んでほしいこととの間に橋を架けるのです。ドイツとオーストラリアの間に橋を架げるためには、自国とドイツの両方について多くを知る必要がありました。橋を架けようとしているなら、それぞれが何を知っているのかを理解し、それをつなげなければなりません。」

生徒の感想

英語での講演会であったため、最初講師の話についていけるか不安だったが、思っていた以上に理解することができ、自分に英語の力がついていて実感し、嬉しくなった。私は最初、外交官とはいったい何をする職業なのかあまりよくわかっておらず、堅苦しいイメージがあった。しかし、講師の Lynette Wood さんが、外交官という職業を通して様々な国を訪れ活動しているということを楽しそうに話しているのを聞き、イメージが変わった。現在コロナの影響で他国へ旅行することが難しくなっているが、いつか、自分も他国を訪れ、日本とは異なる文化や生活に触れてみたいと思った。そのために、これからも英語の勉強に力を入れていきたい。(3年)



どの国においても海外への興味・関心を持つ人は、様々な国の文化に触れるなか自国への貢献を考えていることに気がついた。将来私もただ海外に行くのではなく、海外に行くことで何を得的のか、その得た知識や新たな考え方をどのように自分にまたは社会に役立てるように使うのかを考えながら、この先大学などの留学制度を利用していきたくと思った。リネットさんへの質問で地元の人との交流で何が一番大切かを尋ねた時、興味があるものは何でもする、「異なること」が一番面白いと言われ、挑戦するという意識を忘れずに、海外に行くこと以外にも、将来何事に対してもその意識を持ったまま生活していきたい。(3年)

一番最初に3カ国語を学んだとおっしゃっていて驚きました。質問の中で Wood さんは「外国に住むのが勉強に一番良い」とおっしゃっていたので、私も海外に行ってみたくという気持ちが強くなりました。また、その質問の中で勉強するのに良いアプリケーションとして「Duolingo」を例にされていたのですが、私が使用しているものと全く同じものだったので、とても嬉しく、これからも継続しようと思いました。大使の仕事は全く知らないものばかりだったので面白かったです。オーストラリアの首相がドイツに来た際にサポートをした話はとてもわくわくしました。コロナ禍での仕事の制限はとても厳しそうでしたが、その状況でも自分のしている仕事が好きで、やりがいを感じているのが伝わってきて、将来は私も Wood さんのように自分が夢中になれる仕事を見つけないかと思いました。また、質問に対しての回答で、外国で勉強する際の留意点やお勧めの方法が聞けて、とても参考になりました。ワーキングホリデービザというものを初めて耳にしたので、より詳しく調べてみようと思いました。Wood さんの”build a bridge”という表現がとても素敵だと思いました。自国と他国との架け橋になれる仕事という言葉がとても印象に残りました。(2年)

自分の興味のある分野について、実際に国際社会で活躍されている海外の方からお話をいただけて、とても嬉しかった。そして、自分の将来の目標についても沢山のアドバイスをくださり、とてもためになった。自分の携わる分野だけでなく、農業、政治、経済、教育など様々な面から総合的にその国を捉えることが大切なのだと知ることができた。また、このような機会があったら是非参加して、次回は活発なコミュニケーションをとりたい。(2年)

今回の講演会を聞いて、外交官の国と国をつなげる仕事に興味を持ちました。その仕事をするうえで、まず一番の壁になってくるのは、言語だと思います。私も講師の方のように、様々な言語を習得して自分の活動の幅を広げられるようになりたいと思いました。今はコロナウィルスの影響でどの国も以前みたいには生活できない状況下にあるのだと知り、今回のような機会があれば積極的に参加して多くの経験を積んで、将来に生かそうと思います。日常的に英語に触れることが、英語力を向上させるために最も効果的だと講師の先生がおっしゃっていたので、日常にある英語を意識したり、分からない単語を調べたりして勉強していきたいです。(1年)



編集後記

外交官として活躍する Lynette Wood 氏のお話は、どれも将来役に立ちそうなものばかりでした。

グローバル化の進む現在、世界全体に目を向けることが求められている私たちにとって、この体験は大変貴重なものとなりました。

※7/29(木)には第3回SSH国際交流行事「オーストラリア・グリフィス大学の Francesco Olivieri 博士による人工知能についての講演」(東京都立多摩科学技術高等学校主催)が行われます。

※9/1(水)には第4回SSH国際交流行事「海外留学中(チェコ・医学部)の先輩の話聞いてみよう!」を開催予定です。第3回はオンライン、第4回は対面の予定です。